

中国共産党との理論交流

日本共産党は、昨年来、中国共産党との間で理論交流をすすめています。1998年に両党関係を正常化したさい、両党は、「白紙」の状態で相手をたがいに研究しあうところから出発しましたが、それから8年の間に、共通の世界観を確認し合い、理論交流するところまで大きく発展しています。

私たちの綱領と理論が、まったく異なる条件のもとで活動し、理論的にもまったく違った歴史と蓄積をもつ中国側からみても研究に値する理論内容をもつものとして受けとめられたことは、綱領路線の現代世界における生命力を示すものといえます。



不破社研所長は、中国共産党の招待で北京を訪問。第2回日中理論会談をすすめるとともに、中国社会科学院で学術講演(写真)をおこないました(5月25日)



会談する中国共産党代表団と日本共産党代表団。世界の見方、ソ連の解体などをめぐって率直で真剣な理論交流がおこなわれました(2005年12月、党本部)



不破氏の学術講演を掲載した「しんぶん赤旗」と中国・マルクス主義研究院の月刊誌『マルクス主義研究』9月号

中国では、社会の新しい発展のなかで生まれているさまざまな問題をのりこえて社会主義の国づくりを前進させるためにマルクス主義理論の研究と発展が重要になっていると考え、2004年春に「マルクス主義理論の研究と建設のプロジェクト」が立ち上げられました。このプロジェクトは、世界の社会主義的な知恵のすべてを研究することを重要な内容の1つとしており、日本共産党との理論交流は、その一環としてとりくまれています。